

さざなみ



高島町永田浜（伝承三ツ矢千軒）撮影：大学院生 朴真紗美（詳細は8頁）

滋賀医科大学附属図書館報

No.43

目 次

1998年8月

私を育ててくれた師と本	地域生活看護学講座 教授 泊 祐子	2
シリーズ「本との出会い」(8)		
思い出の一冊	独語 助教授 森田 一平	3
新しくなった図書館システムの全体構成図		5
附属図書館利用講習会（報告）		6
新着図書案内		7
本学関係者寄贈図書		8
表紙写真について		8

私を育ててくれた師と本



地域生活看護学講座 教授 泊 祐 子

滋賀医大に赴任して4年目を迎える。こちらに来て大学生をみているとよく自分の大学時代を思い出すようになった。特に学生の実習に接していると思い出されることは、成人看護学実習において小島操子先生（現在大阪府立看護大学学長）の臨床指導を受けたときに、机上でよく言われていた「患者の立場になり考える」ということが実践の中に如実に感じとられた。「ああ、こういうことを言っていたのか」と薄皮がはげたような気持ちになったことを覚えている。養護教諭になるつもりで進学した看護系の教育学部であったが、その後幾度か進路の相談に小島先生を煩わせながらも、看護婦になった。

小島先生の専門の急性期の看護を専門にするつもりであったが、臨床に出た淀川キリスト教病院では、NICUの後小児病棟の配置になった。小児病棟配属の2、3日目に、夜中に「カイジュウガクル」と泣いたと申し送りのあった男の子しんちゃん（この病院では、親の付き添いはない）に与薬をすることになったが、私は嫌がられて飲んでもらえなかった。前からいる看護婦さんだと難なく飲ませることができた。子どもの発達段階から考えて、当然見知らぬ看護婦では嫌がられるのは無理はないが、当時の私は、「何でだろうか、子どもの心がわからない」と、子どもの心がわからないことが不安になった。子どもを理解しなければと思い、児童心理学の古典山下俊郎の『幼児心理学』を何冊か読み、やっと子どもに興味がわくようになった。

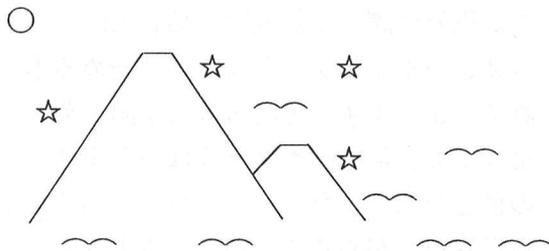
しばらく勤務するうちに、子どもたちや家族の様子が観察できるようになった。喘息児の母親は他の病気の母親と違って、子どものベットサイドに座っていても、自分の子どもよりも周りの子どもや家族の様子をうかがっていることや、自分の子どもが出す要求のサインをキャッチしにくいように思えた。そのことを当時教育婦長をされていた窪田幸子先生（奈良文化女子短期大学教授）に話すと喘息児の親子関係について、親子関係テストなどを使用した研究では、溺愛的養育態度が多いというけれども、現場で感じることはだいぶ違うでしょうと言われたことで、現場を見ることの大切さを学んだ。窪田先生からは本の紹介や子どもを理解するためのアドバイスなど、私が教育者になるための多くの教えをその後もしていただいた。とても感謝している。窪田先生の言われた親子関係というところから興味をもち、書店で手にした本が、『親子関係の心理』（大西誠一郎著 金子書房）であった。誰がどのような研究方法で、どのような結果を出しているのかを丹念に説得力よく書いている。

そうしているうちにこの領域を専門にする決心が付き、大学院に進学することにした。当時は子どもが好きな訳でもなく、希望した小児病棟ではなかったが、恩師の専門とは違う領域をその後も専門にするきっかけをつくってくれた本との出会いがあった。「さざなみ」の原稿を書きながら、多くの方々や本との出会いが私を育ててくれたと改めて確認した。人や本との出会いを大切にしたい。深く感謝している。

最後に、もう一人私の教育態度に影響を及ぼした人を紹介しておく。大学院で出会ったイギリスの自由教育の考えをもつ教育者A.S.ニールである。ニールの考えから学んだことは、自由と放任の全くの違いである。彼は多くの著書を残しているので、皆さんに読んでいただきたい。彼の一言を付け加えておく。

「どこにも問題の子どもというのはいない、いるのは問題の親である」

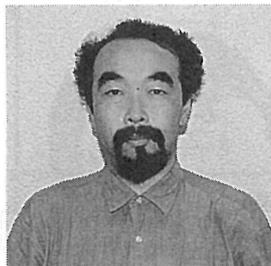
ニール選集より



(とまり ゆうこ)

シリーズ「本との出会い」(8)

思い出の
一冊



独語
助教授 森田 一平

何となく記憶の中の光景が薄暗く湿っぽいので、あれは多分梅雨の一日だったと思います。それも確か月曜日の1時限目ホームルームの時間、教室に入って来た担任の先生は我々と朝のあいさつを交わすと、他に前置きも、本や著者の紹介もなく、やにわに手にした文庫本を読み始めました。今時の学校ならすぐに教室中がざわつくところでしょうが、当時の我々はまだ中学校に入って2月足らず、それも入学初日には

昼食の弁当を食べるのに担任の許可が要ると思って箸もつけずに先生が来るのをずっと待っているほど純情(!?)だったし、学校がそもそも今と違って「荒れて」いなかった時代ですので、私語をする者、居眠りする者もなく、一同だまって先生の朗読に耳を傾けます。

「貞之助が小学校へ行って帰って来るまでの時間は、いつもなら三十分も懸らない所なのであるが、その日は一時間以上も懸ったことであろう。」から始まるその小説は、朗読が進むにつれ、様相が深刻になり、ついには未曾有の大洪水に主人公の義妹がまきこまれ、主人公がその救出に向かう場面へと話が進んでいきました。話に出て来る地名は、芦屋や本山、田中、野寄(のより)、横屋、青木(おおぎ)、甲南市場と自分達の住む土地やその近所のものばかり。しかし語られる光景は我々が日頃目にするものとはまるでちがう世界。すさまじい流れの中を何度か危機に直面しながらも、何とか義妹のいる洋裁学校に主人公がたどりつくまでクラス一同すっかり話の世界にひきこまれてしまい

ました。

何を思ったか先生は題名も著者も結局我々に教えてくれなかったので、これほどまでに自分をひきつけた小説が谷崎潤一郎の作品『細雪』であることは、かなり後になるまで知りませんでした。その小説が自分達の住む町（正確には「川向こう」なので隣町ですが）で書かれたことを知ったのはさらに後年のことですが、たまたま先生が読んで聞かせてくれた本が、今では最も好きな本の一冊ですから、「縁」というのはどこにあるかわかりません。

残念なことに、その本と知り合うきっかけをつくってくれた先生（ちなみに先生の担当は「国語」）は体を悪くされ、我々が卒業するとすぐ亡くなってしまいました。おそらく当時の先生は今の自分より若かったはず、病気で学校を休むことが多くなり、出て来ても顔色がすぐれないので、生徒達も心配してはいたのですが、まさか亡くなれるとは思っていませんでした。ならばもっといろいろ聞きたい、話したいことがあったのにと訃報に接して思ったことを今でも覚えています。

自分はそこそこ本は読むけれど、系統だった読書をする質ではありません。だからなおのこ

と本との「出会い」を考えます。自分の意志ではなく読む本、例えば最近も研修や検定試験の課題として本をかなりの冊数読まなくてはならなかったのですが、否応なしに読まなければならなかった本の中に、すごくおもしろく気に入った本を何冊かみつけました。

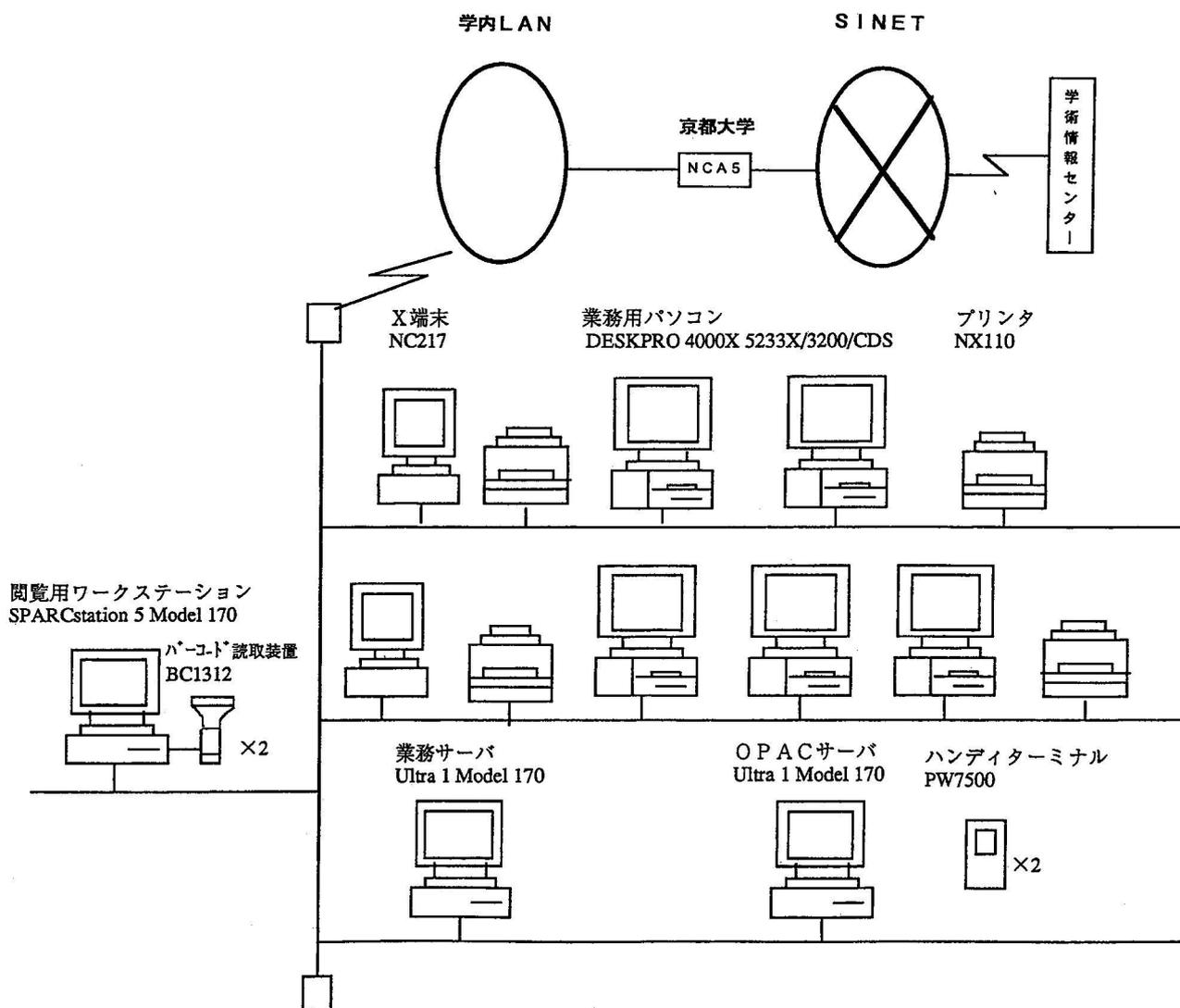
Heinrich BöllやMonika Maronは研修や検定がなければおそらく読まなかっただろうし、Christa Wolfも留学中にドイツの友人が貸してくれなければ目を通すことはなかったでしょう。きっかけは何でも良い、しかしめぐって来た出会いの機会は逃さないことが肝心だと思います。

最後に外国語教師の立場から一言。いかに日本が世界に誇る出版大国、翻訳大国であるとは言え、日本語しかできなければ読める本は限られてしまいます。専門書は日本語と英語で用が足りても、趣味の本はそうはいきません。自分の世界を広げるために、またいろいろな観点から世界をながめることができるようになるために、学生諸君は何語であっても良いから、英語以外の外国語もぜひ習得するようこころがけてほしいと思います。

(もりた いっぺい)



新しくなった図書館システムの全体構成図



本年3月から稼動している現システムには、旧システムと比較して、次の3点の特徴があります。

1. 基本OSにUNIXシステムを用いたサーバー・クライアント方式のオープンシステムです。
2. 学内LANからTCP/IP通信プロトコルを用いたインターネット・バックボーン (SINET) に接続しています。
3. WWW版・GUI版のOPAC (オンライン蔵書検索) が利用できます。WWW版OPACにより、24時間インターネットに接続できる端末があればどこからでも蔵書の検索ができます。

(図書課情報管理係)

附属図書館利用講習会(報告) (平成10年1月～8月)

【平成10年度 新入生履修指導 (図書館案内)】

対象者：医学科新入生101名、看護学科新入生70名 (3年次編入生10名を含む)

日時：平成10年4月13日(月) 14:20～16:00

場所：臨床講義室3、附属図書館

概要：図書館利用について全体説明の後、図書館を案内しました。

配布資料：図書館利用案内、さざなみ

【平成10年度 医学総合研究特論 (大学院特別講義) 文献検索に関するオリエンテーション】

対象者：大学院医学研究科1年次生32名

日時：平成10年5月11日(月) 14:00～17:00

場所：マルチメディア演習室、附属図書館

概要：研究者として必要な、文献検索から文献入手、投稿する雑誌に対する評価等の知識習得を、新しくなったMEDLINE CD-ROMの検索を中心に実習しました。

【平成10年度 新規採用の医員 (研修医) に対する文献検索ガイダンス】

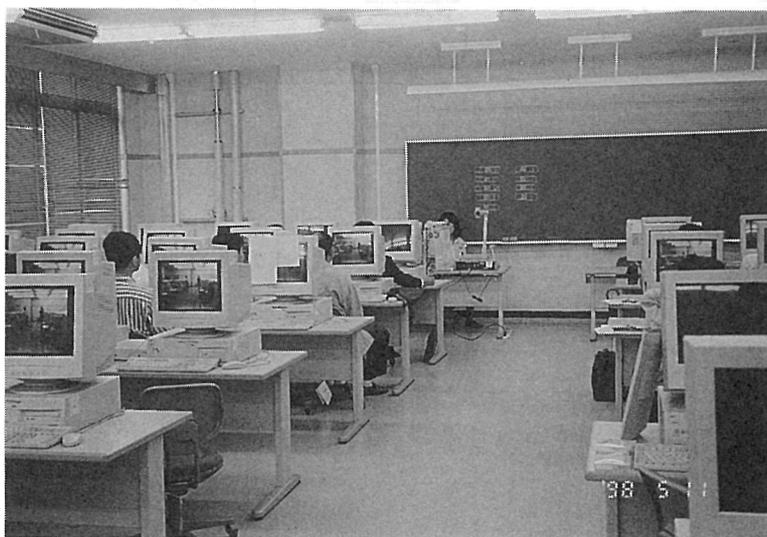
対象者：新規採用の医員 (研修医) 65名

日時：平成10年5月14～15日 (木～金) 10:30～12:00

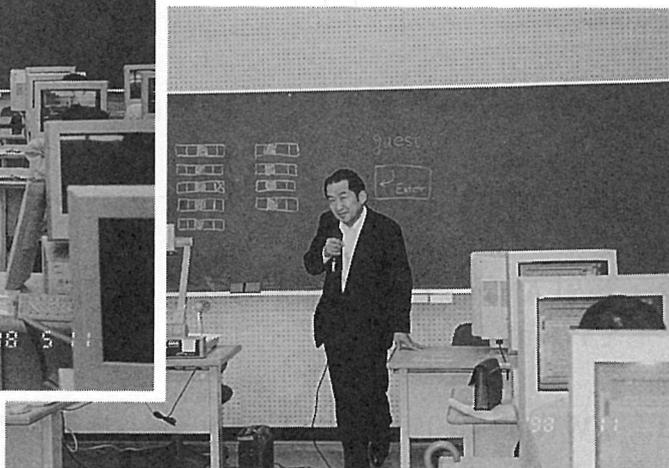
場所：附属図書館

概要：医学・生物学関係の雑誌論文の検索から文献入手までの流れを、MEDLINE CD-ROM、Windows95版医学中央雑誌CD-ROMの検索を中心に行いました。

(図書課情報サービス係)



マルチメディア演習室



前田敏博館長

◆ 新着図書案内 ◆

母を看取るすべての娘へ 森津純子 著
朝日新聞社、1997. WY 200 Mor

筆者は、ホスピス医として、死の瞬間に立ち会ってきた。「死というものは、決して絶望だけでなく、小さな希望のひかりも秘めている。」と言っている。

大腸ガンを患った母が、病院をきらい、家で看護することになった。筆者は、看護中、感情にふりまわされながらオロオロするばかりの娘、批判的で常に模範生でいようとする医者、ただ成りゆきをつめたく客観的に見守っている観察者という3人の自分を生み出したと述べている。医師として、医学的知識や経験をもとに、母を説得しようとする。しかし、検査や治療を拒む母を目の前にすると、娘として不安になったり、冷静でいられなくなってしまふ。観察者は、母親の病状の進行状況を把握し、筆者の葛藤する心の心理状態を分析しているのである。

介護の間、絶えずこの葛藤が起こっている。そして、筆者の中では、看取ったあとも、「医師」と「娘」の葛藤は続いている。

(図書課情報管理係)

音楽療法—ことばを超えた対話—レスリー・バント著 稲田雅美訳
ミネルヴァ書房、1997. WB 550 Bun

本書は、Leslie Bunt著 MUSIC THERAPY : An art beyond words, London : Routledge, 1994の全訳である。

著者は、英国における近代音楽療法の創始者Juliette Alvinの指導を受け、1977年に音楽療法士となり、以来音楽療法士養成課程の教員として教育研究活動に尽力し、1985年、音楽療法分野における英国で最初のPh.D学位を取得した。

「さて本書の内容は、音楽療法の概説書としての広範さと、Buntという一人の音楽療法士のとりくみを紹介し考察する専門書としての深さとが共存している。音楽の潜在力やクライアントの反応についての描写はすべて、豊かな音楽性に裏づけられた実践をとおしてのみ語ることのできる奥深さがある。また全章を通じて譜例を用いた解説がまったく存在しないにもかかわらず、読み手の心の内には彼が用いた音や音楽が快く響きわたる。

Buntは、音楽療法の基本は相互作用にあることを一貫して論じている。それは、人間どうしの相互作用と、一人の人間の内面的な相互作用の両方を意味する。生理学的にどんなによい影響を及ぼす音を見い出すことができても、また、どんなに響きの豊かな音楽を手に入れても、それらを人と人とのつながりのなかであるいはつながりを形成するために、さらには自己統合のために使わなければ音楽療法としての意味はないと彼は考える。」— (訳者あとがき) より—

本学関係者寄贈図書

佐々木武史 (名誉教授)

生涯健康教育の研究
八千代出版 1998

矢澤代四郎 (耳鼻咽喉科学講座 助教授)

めまい・慢性中耳炎の診断と治療
真興交易医書出版部 1998

戸田 昇 (薬理学講座 教授)

循環系治療薬の作用メカニズム
南江堂 1998

馬場 忠雄 (内科学第二講座 教授)

機能内視鏡の現状と展望
新興医学出版社 1998

The Biology of Nitric Oxide Part 6
Portland Press 1998

吉川 隆一 (内科学第三講座 教授)

KEY WORD 1998-'99 糖尿病
先端医学社 1998

西山 勝夫 (予防医学講座 教授)

作業関連疾患及び作業関連災害の疫学
労働基準調査会 1992

ご惠贈ありがとうございました。図書館の蔵書として広く利用に供させていただきます。

なお、他の先生方におかれましても、図書を出版された際には1部を図書館に寄贈していただきますよう、よろしくお願いいたします。

◆表紙写真について

琵琶湖周辺には、かつて湖畔に存在していた村が洪水や地震により湖底に沈んだとされる幻の言い伝えがあり、水没した村はその地名をもって「〇〇千軒」と呼ばれる。

高島町にも江戸時代初め(寛文2年、1662年)、栄えていた三ツ矢村全体が突如湖底に消え去ったという伝承がある。この村については近世の資料や文献に記述がないため伝承のみとされていたが、平成6年の渇水時に永田浜の湖中から多数の遺物が発見され「永田浜遺跡」とされた。

現在、高島町歴史民族資料館に水中写真が数枚展示されている。